



**samco®**  
サムコ株式会社  
証券コード 6387

## 株主メモ

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	7月31日
配当金支払株主確定日	上記のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日
単元株式数	100株
上場市場	東京証券取引所プライム市場
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ (https://www.samco.co.jp/) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料) ※株式関係のお手続き用紙のご請求は、三菱UFJ信託銀行のホームページ (https://www.tr.mufg.jp/daikou/) でも承っております。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## ホームページのご紹介

最新のトピックスをはじめ、財務情報や会社情報を掲載しております。製品・アプリケーションの紹介や広報誌「samco NOW」など、掲載内容を充実させております。当社をよりご理解いただくためにもぜひアクセスしてください。

<https://www.samco.co.jp/>



トップページ

**samco®**





2022年10月

左：代表取締役社長兼COO 川邊 史  
右：代表取締役会長兼CEO 辻 理

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第43期（2021年8月1日～2022年7月31日）の報告書をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

## 当期（第43期）の事業環境と経営成績

半導体等電子部品業界におきましては、当社の関わる化合物半導体及び電子部品製造装置の販売マーケットにおいて5G（第5世代移動通信システム）スマートフォン向けや自動車向けセンサーなどの電子部品分野、あるいはMEMS（Micro Electro Mechanical Systems=微小電気機械素子）といった先端分野での開発投資が幅広い企業で進み、本格生産への移行が着実に進んでおります。加えて、新しい生活様式の浸透によるオンライン化が急速に進んでいることにより、半導体等電子部品製造装置の需要は拡大しております。

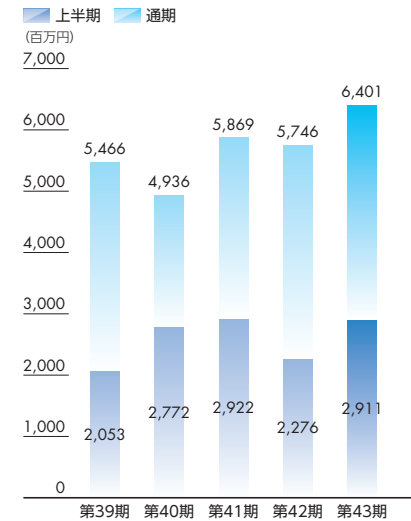
このような状況の下、当社ではオプトエレクトロニクス分野では通信用レーザーやLED、電子部品・MEMS分野では高周波デバイス、パワーデバイス、量子デバイス用途、シリコン分野では欠陥解析用途、表示デバイス分野ではVRディスプレイ用途、その他分野では、医療・バイオテクノロジー用途向けの製造装置の販売実績がありました。また、新規事業（ヘルスケア事業）の創出に向けた技術開発への取り組みや、水蒸気を用いたプラズマ処理装置であるAqua Plasma（アックアプラズマ）洗浄装置の拡販による新たな事業領域の拡大に注力いたしました。

その結果、国内売上高は4,138百万円（前期比25.4%増）、海外売上高は2,263百万円（前期比7.4%減）となり、海外売上高比率は35.4%となりました。また、当期の受注高は8,401百万円（前期比23.3%増）となり、当期末の受注残高は5,027百万円（前期比66.1%増）となりました。

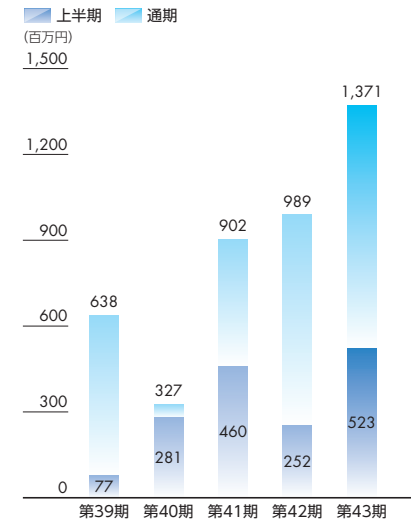
以上の結果、当期における業績は、売上高が6,401百万円（前期比11.4%増）、営業利益は1,371百万円（前期比38.6%増）、経常利益は1,481百万円（前期比41.8%増）、当期純利益は1,052百万円（前期比39.3%増）となりました。

株主、取引先、従業員等のステークホルダーにとって魅力ある企業を目指し、成長力と収益力の向上を図り、適切な利益配分により企業価値の向上を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

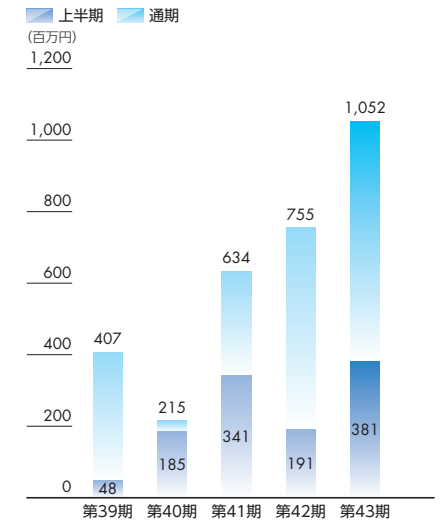
## ■ 売上高



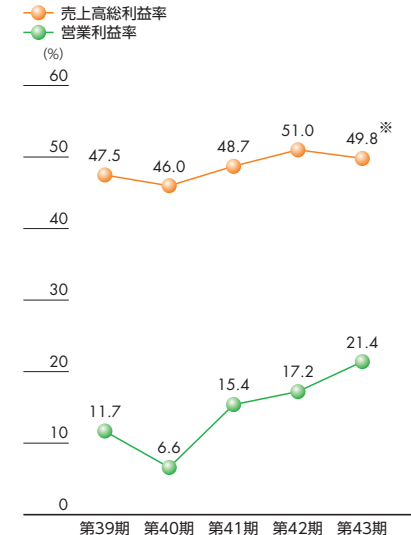
## ■ 営業利益



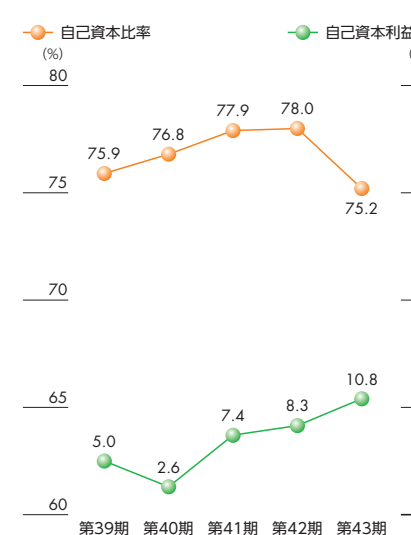
## ■ 当期純利益



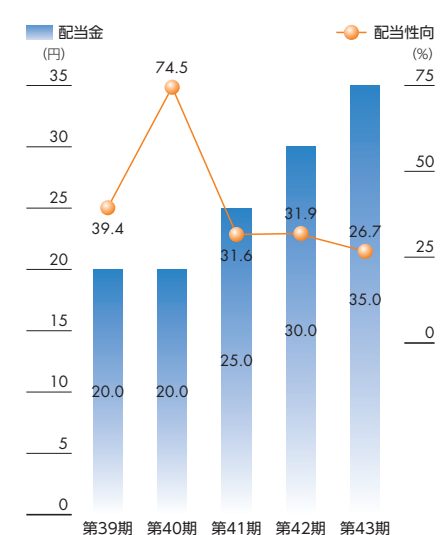
## ■ 売上高総利益率・営業利益率



## ■ 自己資本比率・自己資本利益率



## ■ 配当金・配当性向



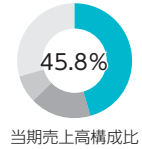
※第43期より新収益認識基準を適用し、売上総利益率の算出方法が変わりました。そのため第42期以前と比較して売上総利益率が低く表示されています。

## 品目別販売状況

### ■ エッチング装置

売上高 2,934百万円 前期比 0.1%増

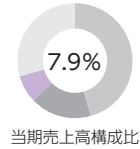
▶ 電子部品分野での高周波デバイス、パワーデバイスや各種センサー用、オプトエレクトロニクス分野の通信用レーザーなど幅広い用途での販売により、売上高は2,934百万円となりました。



### ■ 洗浄装置

売上高 504百万円 前期比 17.3%減

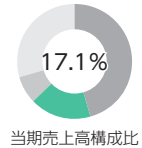
▶ オプトエレクトロニクス分野の半導体レーザーの洗浄用の生産機や、医療・バイオ関係の表面有機物除去用などの販売により、売上高は504百万円となりました。



### ■ CVD装置

売上高 1,092百万円 前期比 19.8%増

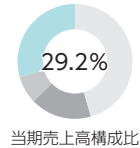
▶ オプトエレクトロニクス分野の半導体レーザー、電子部品分野での高周波デバイスやパワーデバイスにおける各種絶縁膜、保護膜形成用途での販売により、売上高は1,092百万円となりました。



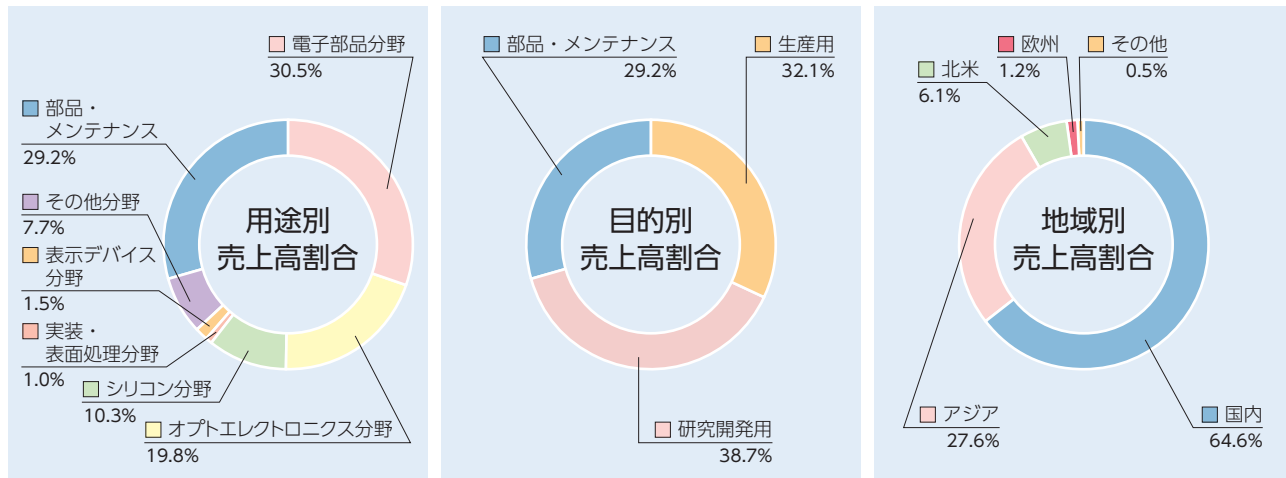
### ■ その他

売上高 1,869百万円 前期比 44.7%増

▶ 生産用装置のメンテナンスに伴う部品販売が拡大し、売上高は1,869百万円となりました。

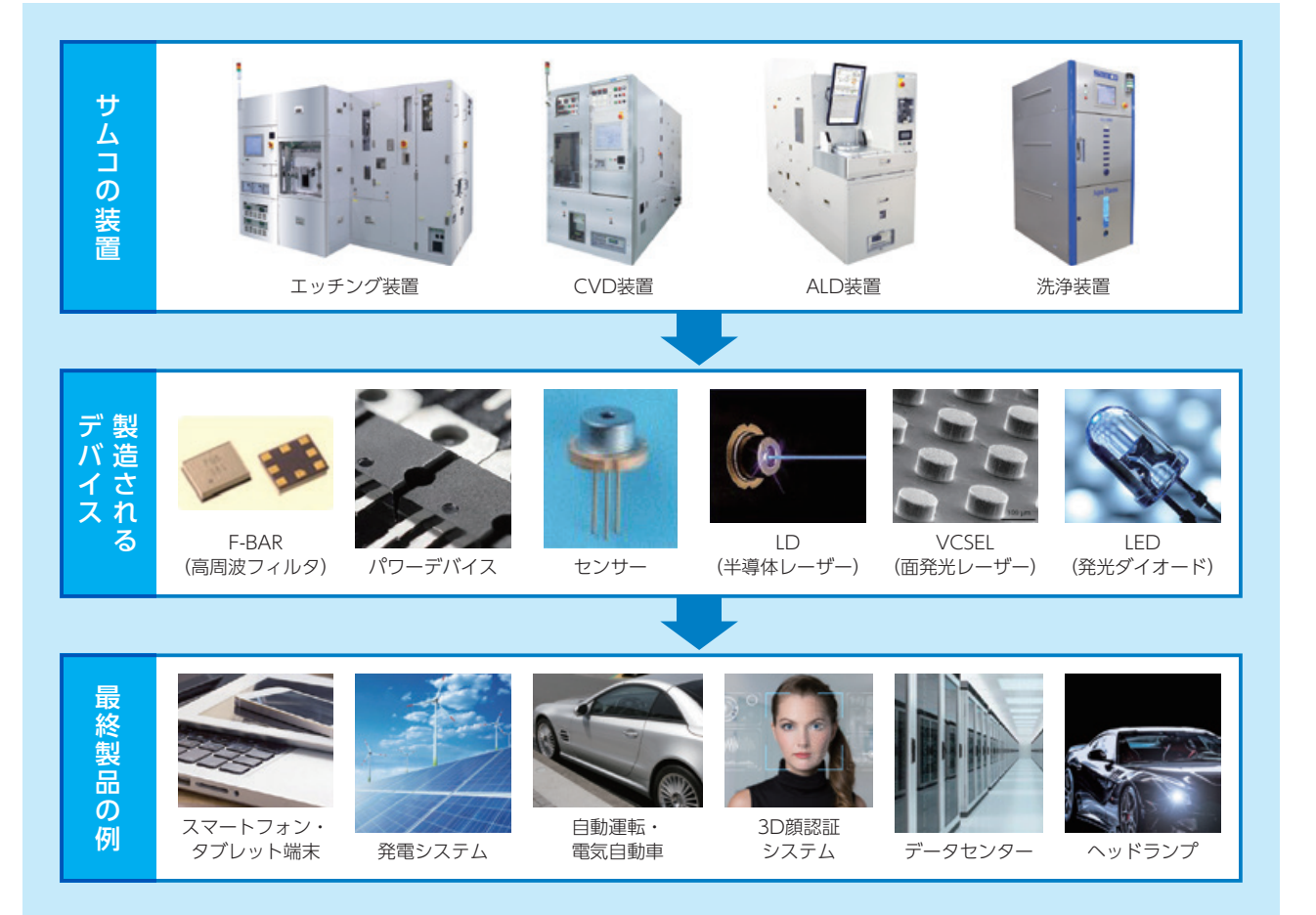


## 売上高割合状況



当社は、皆様の快適な暮らしを支える半導体や電子部品を加工する製造装置を製造・販売しております。薄膜を微細加工するエッチング装置、薄膜を形成するCVD装置・ALD装置、基板表面をクリーニングする洗浄装置などの製品を世界中に提供しています。

IoTやDX（デジタルトランスフォーメーション）などの技術革新に伴い、当社の薄膜技術を利用した製造装置の需要は今後高まると予想されます。「薄膜技術で世界の産業科学に貢献する」という経営理念の下、当社の事業を通じて省エネ・脱炭素などの社会・環境課題の解決に貢献していきます。



# 財務諸表

## 貸借対照表

単位：千円（未満切り捨て）

科目	当期 (2022年7月31日現在)	前期 (2021年7月31日現在)	科目	当期 (2022年7月31日現在)	前期 (2021年7月31日現在)
<b>(資産の部)</b>			<b>(負債の部)</b>		
流動資産	8,840,448	7,714,562	流動負債	2,314,240	1,821,212
現金及び預金	5,826,790	4,826,002	買掛金	779,591	646,532
受取手形	11,429	10,672	短期借入金	700,000	700,000
電子記録債権	57,931	41,176	1年内返済予定の長期借入金	39,996	—
売掛金	536,715	1,858,335	未払金	110,224	125,178
契約資産	777,072	—	未払費用	38,697	37,407
棚卸資産	1,585,207	850,666	未払法人税等	258,203	175,929
その他	45,441	127,908	契約負債	217,378	—
貸倒引当金	△ 141	△ 199	預り金	35,443	34,225
固定資産	4,539,192	4,355,307	賞与引当金	23,700	23,100
有形固定資産	3,815,865	3,648,823	役員賞与引当金	30,000	30,000
建物	300,985	323,774	製品保証引当金	15,400	18,400
構築物	2,191	1,787	その他	65,604	30,439
機械及び装置	32,302	54,867	固定負債	1,007,868	838,452
車両運搬具	3,773	6,868	長期借入金	143,339	—
工具、器具及び備品	18,164	24,514	退職給付引当金	479,575	460,095
土地	3,453,567	3,231,918	役員退職慰労引当金	384,954	375,291
リース資産	1,009	4,014	その他	—	3,065
建設仮勘定	3,869	1,076	負債合計	3,322,108	2,659,665
無形固定資産	4,934	8,613	(純資産の部)		
投資その他の資産	718,392	697,869	株主資本	9,909,873	9,248,037
投資有価証券	290,122	305,047	資本金	1,663,687	1,663,687
関係会社株式	25,207	25,207	資本剰余金	2,079,487	2,079,487
繰延税金資産	121,990	100,662	資本準備金	2,079,487	2,079,487
その他	281,072	266,952	利益剰余金	6,178,937	5,517,047
資産合計	13,379,640	12,069,869	利益準備金	59,500	59,500
			その他利益剰余金	6,119,437	5,457,547
			別途積立金	4,367,000	3,867,000
			繰越利益剰余金	1,752,437	1,590,547
			自己株式	△ 12,238	△ 12,184
			評価・換算差額等	147,658	162,165
			その他有価証券評価差額金	147,658	162,165
			純資産合計	10,057,532	9,410,203
			負債・純資産合計	13,379,640	12,069,869

## 損益計算書

単位：千円（未満切り捨て）

科目	当期 (自2021年8月1日 至2022年7月31日)	前期 (自2020年8月1日 至2021年7月31日)
売上高	6,401,870	5,746,666
売上原価	3,212,022	2,815,063
売上総利益	3,189,847	2,931,602
販売費及び一般管理費	1,818,641	1,942,179
営業利益	1,371,206	989,423
営業外収益	114,302	59,906
営業外費用	4,103	4,558
経常利益	1,481,405	1,044,772
税引前当期純利益	1,481,405	1,044,772
法人税、住民税及び事業税	377,510	288,530
法人税等調整額	50,984	419
当期純利益	1,052,910	755,822

### Point ▶ 売上高

5Gの本格導入に向けて過去最高の売上高を記録。売上高は、前期比11.4%増の6,401,870千円。国内売上高は、前期比25.4%増の4,138,097千円。海外売上高は、前期比7.4%減の2,263,773千円。

### Point ▶ 営業利益

営業利益は、前期比38.6%増の1,371,206千円。営業利益率は、21.4%に向上。

### Point ▶ 営業外収益

円安による為替差益が87,594千円発生。

### Point ▶ 当期純利益

当期純利益は、前期比39.3%増の1,052,910千円。

### Point ▶ 損益分岐点

損益分岐点売上高は3,753,916千円。

## キャッシュ・フロー計算書

単位：千円（未満切り捨て）

科目	当期 (自2021年8月1日 至2022年7月31日)	前期 (自2020年8月1日 至2021年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,181,167	493,478
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 214,042	△ 815,741
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 64,106	△ 210,026
現金及び現金同等物に係る換算差額	51,257	21,072
現金及び現金同等物の増減額	954,275	△ 511,217
現金及び現金同等物の期首残高	2,965,313	3,476,531
現金及び現金同等物の期末残高	3,919,589	2,965,313

### Point ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

プラス要因：税引前当期純利益1,481,405千円、売上債権及び契約資産の減少157,956千円。  
マイナス要因：棚卸資産の増加が525,555千円、法人税等の支払299,734千円。

### Point ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

プラス要因：定期預金の払戻による収入2,605,577千円。  
マイナス要因：定期預金の預入による支出2,615,463千円、有形固定資産の取得による支出234,223千円。

### Point ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

プラス要因：長期借入れによる収入183,335千円。  
マイナス要因：配当金の支払240,983千円。

当社の主たる事業領域である化合物半導体及び電子部品製造装置のマーケットでは、DX、自動運転、AI、ロボット、量子コンピューター等の技術革新の進展に伴い、関連企業は設備投資に対して積極的な姿勢を示しております。

このような中において、当社は、「薄膜技術で世界の産業科学に貢献する」という経営理念の下、研究開発型企業として成長してきた高度な技術力に更に磨きをかけると同時に、蓄積した技術を生産機市場で活かすことで、事業規模の拡大を図っております。加えて、当社のコアテクノロジーである「薄膜技術」は医療、バイオ、環境といったライフサイエンス及びエネルギー分野に活かすことが可能であり、中期的には当社の新規事業、新分野として成長させることを目指し、積極的に事業を展開してまいります。

こうした状況を踏まえ、中期経営計画 第44期～第46期（2022年8月1日～2025年7月31日）において“グローバル中堅企業へ”をスローガンとし、第44期においては次の課題に取り組んでまいります。

## 課題

### 1 クラスターツールシステムの拡販

クラスターツールシステムとは、搬送プラットフォームを中心に複数の反応室を接続できる量産用のシステムであり、エッチング工程向けに2021年12月に販売を開始いたしました。当社は非シリコン分野の材料加工のリーディングカンパニーとして本システムを拡販し、量産機市場で複数のトップシェア商品を持つことにより、飛躍的な業容の拡大を目指します。第44期においては、クラスターツールシステムの販売に特化した専門部隊

を新設するとともに、本システムの生産拠点及び体制を整備いたします。



### 2 海外販売の拡大

当社の事業を成長軌道に乗せるため、将来の成長期待の高い海外への事業展開を積極的に行っております。引き続き現地の営業・サービス人員を強化するとともに、本社からのサポート体制を充実させ、海外市場の開拓を図ってまいります。北米、台湾、中国、韓国の既存主要顧客との繋がりを維持、強化しながら、欧州、インド等の新たなマーケットの確立により、海外売上高比率50%以上を目指してまいります。



台湾オフィスチーム

### 3 生産体制の拡充

売上高の増加に対応し、生産体制の拡充を行います。当社の製造に関しては、自社の企画設計により協力会社に製造を委託し、製品出荷前に調整、性能・品質検査を行い販売しております。生産量の拡大に伴い、出

荷前検査の自社工場スペースの拡大と、新規協力会社の開拓及び既存協力工場の活用を進めてまいります。



### 4 成膜装置販売の強化

2020年7月に第2生産技術棟内に開設した成膜装置（CVD装置、ALD装置等）のデモルームの活用によりプロセス開発を強化し、国内外企業からのサンプルのデモ処理や、大学・研究機関・企業など社外との共同研究により、顧客との連携を拡大していく計画であります。



ALD装置の新製品「AD-800LP」

### 5 新規事業の立上げ

現在の製品群であるCVD装置、エッチング装置、洗浄装置を新たな事業領域へ展開し、新規事業として業績へ寄与させることを目指しております。具体的には、第38期よりヘルスケア分野へ進出し、医療分野における滅菌装置の開発及び医療計測分野におけるヘルスケアチップの加工装置の開発・販売を行っております。

### 6 更なる成長に向けた人材育成・活用

当社にとって最大の資産は人材であります。既存の人材を強化・育成し、新たに優秀な人材を獲得することが当社の企業価値を決定し、成長の大きな原動力と

なります。外部講師を招いた部長塾や課長塾、主任・係長向けの「成長塾」を開催し、中長期的な幹部候補の育成に注力するとともに、65歳以上になっても働き続けられる会社を目指し、シニア社員が十分社会に貢献できるような再教育にも取り組んでまいります。

### 7 社内環境対策(サムコ環境方針)への取り組み強化

2022年8月開催の取締役会において、気候変動に係るリスク及び機会、自社の事業活動や収益に与える影響について評価・分析し更なる環境負荷低減を進めるべく、代表取締役社長を委員長とする「ESG委員会」を設置いたしました。

取締役会は同委員会の活動報告を受けて、当社の気候変動に関するリスク・機会及びこれらに対する対策の状況を把握し、これによる財務への影響や中長期経営計画への影響、更なる環境負荷低減への取り組み等に対する検討を行ってまいります。



以上の課題を克服し、第44期は売上高7,700百万円、第45期は9,200百万円、第46期は11,000百万円という中期経営計画の目標達成を目指します。

○技術開発、生産拠点の設置を目的とした土地を取得

5月、当社の研究開発拠点である研究開発センターの将来的な拡充・設備の更新を含めた新たな研究開発拠点の整備を可能とするため、隣接地の土地（909平方メートル）を取得いたしました。具体的な内容・整備のタイミングにつきましては検討中ですが、既存の研究開発センター用地と合わせ、総合的な開発を検討してまいります。



○ウクライナへの寄付について

当社は、ウクライナの学生が安心して学べる環境を支援したいと考え、京都大学のウクライナ学



生支援の意義に賛同し、その活動の一助とすべく同大学が設置した「ウクライナ危機支援基金」への300万円の寄付を決定し、5月10日に実施しました。

また、例年、社会貢献活動の一環として決算期末である7月末に日本赤十字社へ寄付をしております。本年は特にウクライナでの人道危機対応及びウクライナからの避難民を受け入れる周辺国とその他の国々における救援活動に取り組んでおられる日本赤十字社の活動にお役立ていただくため、日本赤十字社へ500万円を寄付いたしました。

当社では、紛争が早期に解決され、ウクライナ及び周辺地域の平和が回復することを心から願っております。



京都大学様より寄付に対する感謝状を拝受  
左：代表取締役社長 川邊 史

○サムコ科学技術振興財団が2022年度 第6回研究助成者6名に研究助成金を贈呈

サムコ科学技術振興財団は、6月25日に第6回薄膜技術に関する研究助成の対象者6名を決定いたしました。助成対象者6名には、9月14日に開催されました研究助成金贈呈式において、それぞれ200万円、総額1,200万円が贈呈されました。式典後には、東京工業大学 名誉教授 伊賀健一様による記念講演が行われました。



※研究助成対象者6名とその研究課題につきましては財団のホームページをご覧ください。  
<https://www.samco.co.jp/foundation/prize/>

(2022年7月31日現在)

■ 会社概要

商号 サムコ株式会社  
 英文社名 SAMCO INC.  
 設立 1979年（昭和54年）9月  
 事業内容 半導体等電子部品製造装置の製造、販売及び輸出入  
 資本金 1,663,687,288円  
 従業員数 173名  
 本社 〒612-8443 京都市伏見区竹田藁屋町36番地  
 TEL (075) 621-7841 FAX (075) 621-0936  
 国内拠点 本社（京都）、東日本営業部（東京）、東海支店（愛知）、つくば営業所（茨城）  
 海外拠点 米国（カリフォルニア・ニュージャージー）、台湾、シンガポール、中国（上海・北京）、マレーシア  
 研究拠点 本社研究開発センター（京都）、オプティフィルムズ研究所（米国）

■ 役員（2022年10月25日現在）

代表取締役会長兼CEO 辻 理  
 代表取締役社長兼COO 川 邊 史  
 取締役常務執行役員 山 下 晴 彦  
 取締役執行役員 宮 本 省 三  
 佐 藤 清 志  
 社 外 取 締 役 村 上 正 紀  
 高 須 秀 視  
 藤 田 静 雄  
 常 勤 監 査 役 辻 村 茂  
 社 外 監 査 役 木 村 隆 之  
 西 尾 方 宏  
 常 務 執 行 役 員 竹之内 聡一郎  
 外 山 信 一  
 執 行 役 員 関 仲 修  
 ピーター・ウッド  
 本 山 慎 一  
 松 出 和 男

■ 株式の状況

発行可能株式総数 ..... 14,400,000株  
 発行済株式の総数 ..... 8,042,881株  
 株主数 ..... 8,557名

■ 大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
(一財)サムコ科学技術振興財団	1,000,000	12.4
辻 理	877,807	10.9
サムコエンジニアリング(株)	850,282	10.6
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	748,800	9.3
(株)日本カストディ銀行(信託口)	272,600	3.4
辻 一美	201,465	2.5
(株)三菱UFJ銀行	129,600	1.6
サムコ従業員持株会	111,238	1.4
立田 利明	103,099	1.3
三菱UFJキャピタル(株)	102,931	1.3

■ 所有者別株式分布状況

